

愛知・名古屋

わたし 私たちのまちにも 戦争があった

～平和について考えよう～



愛知・名古屋 戦争に関する資料館

目次

1 はじめに	1
2 この地域の戦争について	
(1) 近代日本の戦争	2
(2) 愛知の空襲(名古屋の空襲、中小都市と軍需工場の空襲)	3
(3) 戦時中の子どもたち(戦時中の学校、学童疎開、学徒動労動員)	8
(4) 東南海地震・三河地震	11
(5) 戦争と人々の暮らし(衣・食・住)	12
(6) 敗戦	14
(7) 今も残る戦争遺跡	15
3 「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」について	16

「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」を運営する愛知県と名古屋市では、昭和38年に、県議会、市会において、「平和県宣言」、「平和都市宣言」が決議されており、その精神に沿って行政運営が行われています。

愛知県平和県宣言

戦争のない世界、原水爆脅威のない世界は、全人類の悲願である。
愛知県は、全世界の人々と手を携えて人類永遠の平和と幸福実現のために努力する平和県であることを宣言する。

昭和38年9月30日 愛知県議会

名古屋市平和都市宣言

世界恒久の平和を希求し、子孫に恵沢を確保するのは、全人類の悲願であり、われらが戦争を永遠に放棄したのも、この人類普遍の原理に由来する。
名古屋市は、原水爆の脅威から免れ全人類の平和と幸福を熱望する全世界の人々と相より相扶けて、人類永遠の平和確立のため努力する。右宣言する。

昭和38年9月18日 名古屋市会

昭和館

「次世代の語り部」講話派遣

～学校の授業や団体の催しなどに語り部を派遣します～

「次世代の語り部」とは？

戦後75年以上が経過し、戦争体験者も高齢化し、戦中・戦後の苦労を聞く機会が減ってきています。

昭和館「次世代の語り部」は戦後生まれで戦争の体験はありませんが、当時の人々のくらしや苦労を学び語り継いでいく活動をしています。



疎開先の井戸で手を洗う児童たち
昭和19年(1944)9月 埼玉県久喜市



国民学校での舞刀の練習
昭和18年(1943)9月～11月 富山県黒部市

講話の内容は？

- 戦争が始まって、子どもの生活や学校の授業に影響はあったの？
- 地方へ集団疎開した子どもたちは、疎開先でどんな生活をしていたの？
- 戦地の兵士と家族はどうやって連絡をとっていたの？

など当時の人々のくらしを、社会情勢や時代背景とともに話します。
1回の講話は30分程度です。

講話テーマは裏面のリストより選択してお申し込みください。



「次世代の語り部」講話テーマ

テーマ	対象
① 残された家族 ～家族を戦争で失くした人たちの思い～	小学校5年生から一般
② 国策紙芝居で知る戦時下のくらし	小学校6年生から一般
③ 戦争と動物 ～戦争で犠牲になった動物たち～	小学校高学年から一般
④ 聞こえない人と戦争	小学生から中学生
⑤ 戦災孤児たちの願い ～もしも魔法が使えたら～	小学校6年生から中学生
⑥ 戦中の小学生	小学校高学年から中学生
⑦ 沖縄の光と影 ～今を支える戦争の記憶～	小学校高学年から中学生
⑧ 学校生活と子どもたち(戦前・戦中編)	小学校6年生から中高生
⑨ 子どもの戦中・戦後のくらし ～島本京子さんの体験から～	小学校6年生から中学生
⑩ 戦時下の中学生 ～学校生活と学徒動員～	小学校6年生から一般
⑪ ぼくの家にも戦争があった	小学校中学年から中学生
⑫ 軍国少年の戦中・戦後 ～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として～	小学校高学年から一般
⑬ 学童疎開 ～戦時下の親元を離れての集団生活～	小学校高学年
⑭ 戦中の子どもの学校生活 ～昭和8年生まれの子どもたち～	小学校高学年
⑮ 空白の3年8か月 ～天気予報と戦争～	中学生から一般
⑯ 軍事郵便を聞く	中学生から一般
⑰ フミちゃんや沖崎戦 ～それでも私は生きる～	中学生から一般
⑱ 戦争と学生 ～過激な時代を生きた大学生と彼らを取り巻く人々の想い～	高校生から一般
⑲ 熱田空襲下の学徒動員体験記 ～航空機製造へ舵を切った愛知時計電機～	高校生から一般
⑳ 白米が憧れだった頃 ～戦中・戦後の人びとの米への強い想い～	一般
㉑ 1945年8月1日の空襲	一般

◆1回の講話は30分程度です

◆機器の準備やあいさつなども含め、1時間弱(小学校の授業なら1時限分45分)を見込んでご準備ください

＜講話派遣の申込にあたっての注意事項＞

- 講話は、スライド資料をプロジェクターで投影しながら行います。必要な機器(机、椅子、マイク、パワーポイントが使用できるパソコン、プロジェクター、投影用スクリーン、接続用ケーブルなど)は、申込者でご準備ください。
- 語り部への謝金は不要です。交通費は昭和館で負担しますが、会場が遠方の場合にはご負担をお願いする場合があります。
- 会場に昭和館を希望される場合は語り部事業担当までお問い合わせください。

●定期講話会のご案内 毎月第1日曜日に語り部による「定期講話会」を開催しています。
詳しくは昭和館ホームページ・SNSをご確認ください。

「次世代の語り部」講話派遣のお申し込みは！

昭和館ホームページ「次世代の語り部」講話より申込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールまたは、FAXでお申し込みください。

■お問い合わせ先
昭和館 次世代の語り部事業 TEL: 03-3222-2573 FAX: 03-3222-2626
メール: kataribe@showakan.go.jp

昭和館 語り部



URL <https://www.showakan.go.jp>

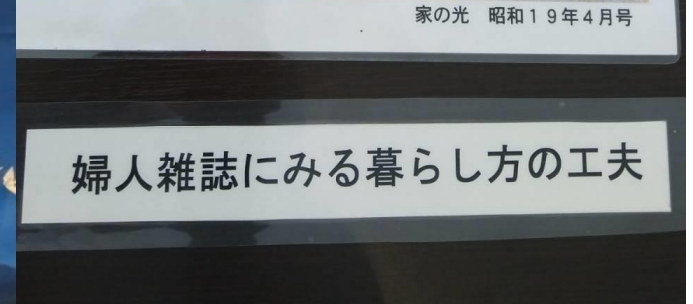
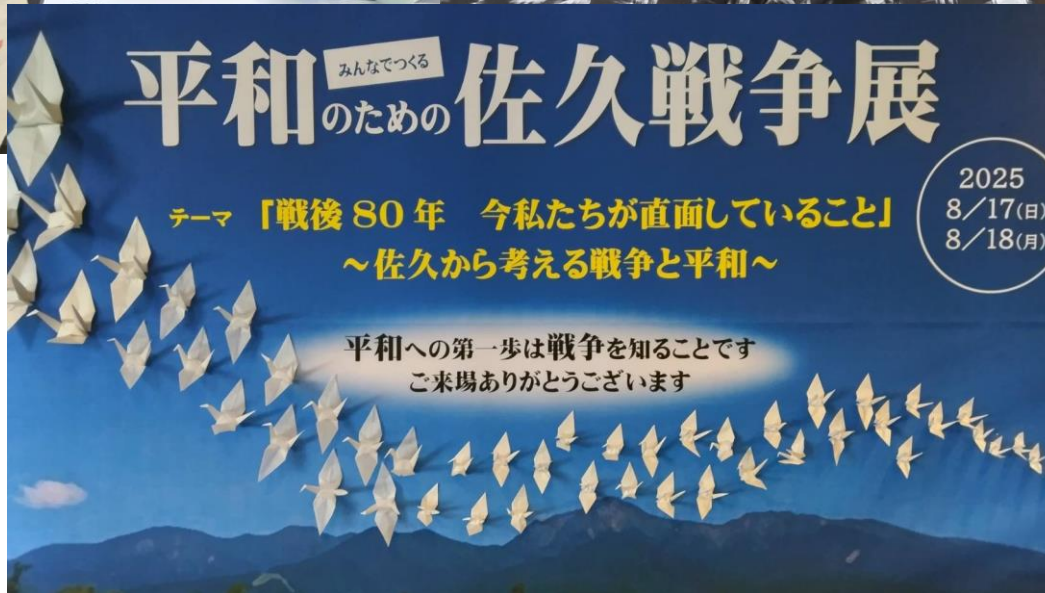
Twitter: https://twitter.com/showakan_kud Facebook: https://www.facebook.com/showakan_kud
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 次世代の語り部事業 TEL: 03-3222-2573 FAX: 03-32-22-2626
メール: kataribe@showakan.go.jp



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的資料や情報を収集、保存、展示して、国民生活上の苦労を次世代の人々に伝える国立の施設です

平和学習目標 【関心から自分のことへ】

	関心	意欲	態度
小学校1・2・3年	平和について関心を持つ。 過去に日本であった戦争に関心を持つ。	仲間と同じでありたいと思う。 主張の違いを解決しようとする。	自分に自信を持つ。 いじめの被害者へ共感する。
小学校4・5・6年	地域に関係がある平和の問題に関心を持つ。 地域に関係する紛争や戦争に関心を持つ。	平等を求め、仲間と共に生きようとする。 主張の違いを仲間と協力して解決しようとする。	自分に自信を持ち、他者を受け入れる 暴力（戦争）の被害者へ共感する。
中学校1・2・3年	平和形成の活動について関心を持つ。 戦争の歴史や外国の紛争や戦争について関心を持つ。	異なる人々と公平に生きようとする 生徒間の主張の違いを、調整して解決しようとする。	自尊感情を高め、仲間への信頼感を高める 暴力（戦争）の被害者に共感し、平和の問題を自分のことに引き寄せる。
高等学校1・2・3年	平和形成の歴史や外国での平和形成について関心を持つ。 平和構築の歴史や外国の紛争解決について関心を持つ。	公正を求め、異なる人々と友好的な関係を築こうとする。 地域社会の紛争解決に貢献しようとする。	他者を尊重し、世界の多元性を受け入れる。 暴力（戦争）の被害者に共感し、平和の問題を自分が関与できるものと捉える。



佐久教育会館「平和のための佐久戦争展」撮影者小林哲子



出典 小諸市PR動画「小諸がアツ・イー本篇・ふるさと市民篇・狙われた給食篇」